

『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第67号(2010年11月29日)「中国市場動向2010年10月」



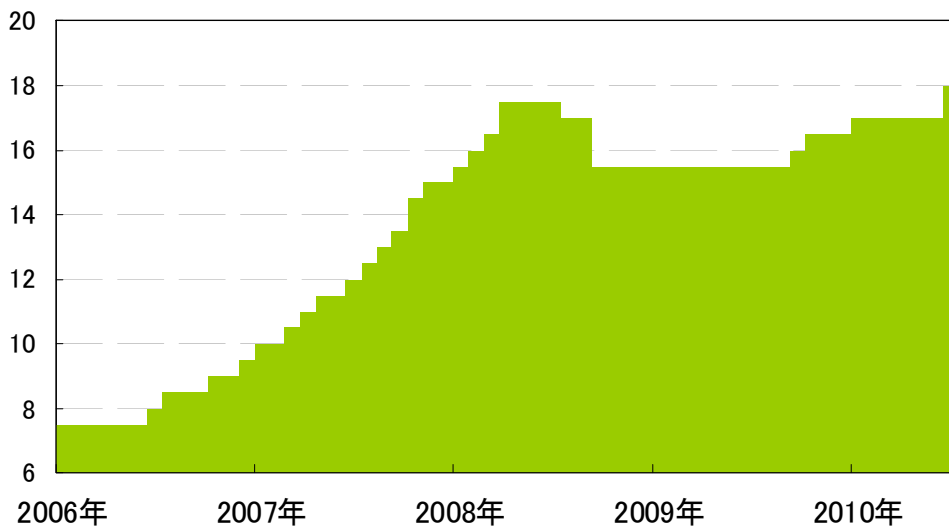
2回の引き上げ

中国人民銀行(中国の中央銀行)が11月10日の発表に続き、11月19日に再度預金準備率を0.5%引き上げると発表しました。今回の発表は、今年預金準備率5回目の引き上げとなります。引き上げ後に、預金準備率が18%となり、1985年以来の高水準となります。

今回預金準備率の引き上げは①ホットマネー流入の阻止、②インフレの予防と2つ大きな背景が挙げられます。11月上旬、6,000億ドル(約50兆円)の長期国債購入を柱とする米連邦準備制度理事会(FRB)の追加緩和策が決定されたことをきっかけに、海外から潤沢な資金の中国への流入圧力が高まってきました。不動産市場への資金流入を抑制するために、このタイミングで預金準備率を引き上げることが必要であったと考えられます。また、中国国家统计局が発表した10月の消費者物価指数(CPI)の前年同期比が9月の同指標の+3.6%から大きく上昇し、+4.4%と2010年年間インフレ目標値の+3%を大きく上回ったため、今回の預金準備率の引き上げは当局がインフレ抑制を目的とした政策であると思われる。

(%)

大手行の預金準備率の推移



11月2回の引き上げで、18.0%となりました。

出所: 中国人民銀行



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート

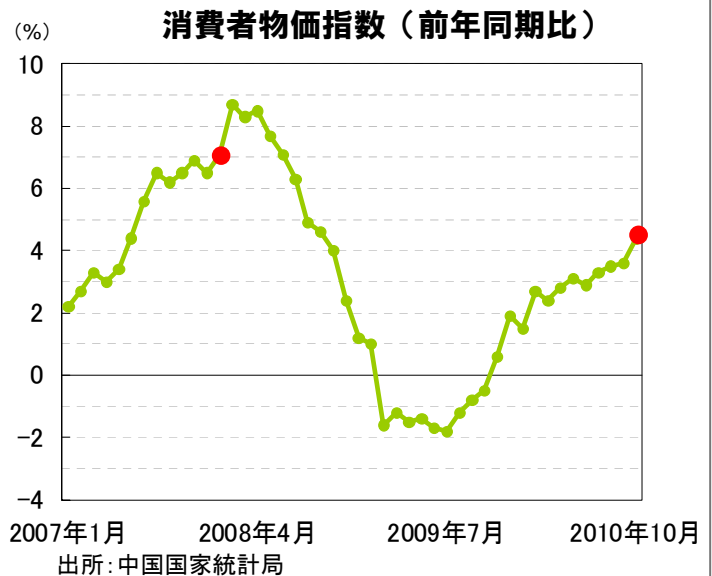


16項目の物価安定措置

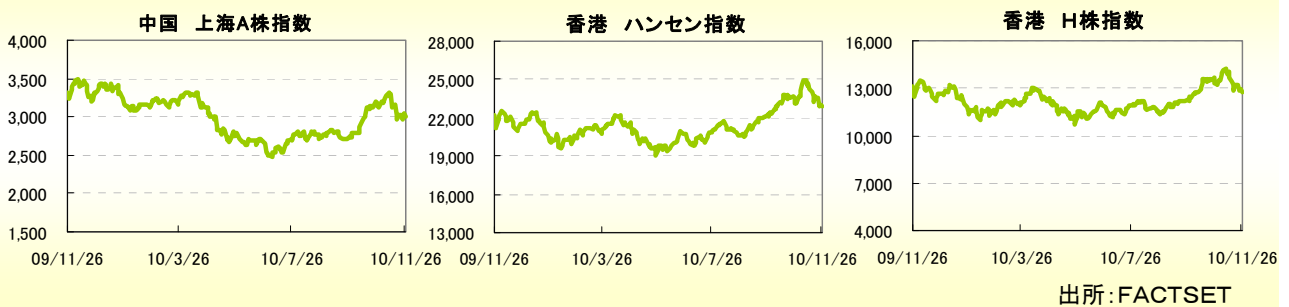
2010年11月20日、10月CPIの高水準を受け、中国国務院から「物価水準を安定させ、国民の生活水準を保証する」という題名の通知を公表しました。通知によると、16項目の価格介入などの政策により、農産物をはじめとする生活必需品の価格上昇を抑えようとしているようです。

実はこのような価格安定措置がインフレ率が高かった2008年1月に、すでに一回実施されていました。2007年末から2008年のはじめにかけてのインフレが今年のインフレとかなり似たような部分があります。それは食料品の高騰です。2010年10月の食品価格が前年同期比+10.1%となり、2008年1月の同+18.2%ほどではありませんでしたが、警戒しなければいけない水準まで上昇しています。

一方、右のグラフでわかるように、前回の物価安定措置が実施されてから物価上昇のペースが鈍化し、その後リーマンショック（2008年9月）の影響もありますが、インフレ圧力が徐々に後退しました。今回の価格安定措置の実施の効果が来年旧正月前後に出ると考えており、注目していきたいと思えます。



《主要株価推移》（各市場の直近1年間）



（編集後記）中国の某大手ネット掲示板で「今年の漢字」の募集を開始しました。物価上昇を意味する「漲」が首位となっているようです。ここ一年間の物価上昇がすでに一般国民の生活に影響が出ていることがわかります。

（告られタイ）



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。